

視力測定

参考基準値

解

説

KKCでは、遠方視力を5mの距離で、矯正視力を優先して、片眼ずつ測定します。電子式視力計を用いて測定する場合があります。

一般的に遠方視力の正常範囲は0.8～1.2とされています。

KKCでは、普通第一種運転免許取得基準で「裸眼、矯正を問わず両眼視力で0.7以上」を採用しています。



以下にKKCの判定基準を示します。

右 左	0.1以下	0.2～0.6	0.7以上	失明
0.1以下	要精密検査	要精密検査	要精密検査	要精密検査
0.2～0.6	要精密検査	要経過観察	正常範囲内	要経過観察
0.7以上	要精密検査	正常範囲内	正常範囲内	健康者扱い
失明	要精密検査	要経過観察	健康者扱い	健康者扱い

0.7以上

判定が要経過観察・要精密検査だったら...

長時間にわたって本や書類を読んだり、パソコン業務でVDT画面を見続けたりした場合、目の辺りや奥の方に重い感じがしたり、目がかすんだり、時には肩が凝ったり頭痛がしたりすることがあります。これが「眼精疲労」と呼ばれる状態です。無理して目を使い続けると、視力が低下したり、近視が進むことがあります。このためVDT作業では1時間毎に10分程度は画面を見ないで目を休め、できれば窓の外に見える遠くの山や緑の木々を眺めることが勧められます。

他の病気で視力が低下することもあります。40歳台以降では白内障や緑内障、加齢黄斑変性症など、視力障害を起こす病気も少なくありません。視力検査は目の健康状態を知る最も基本的な検査ですが、これだけで正しい診断ができるわけではありません。

KKCの判定基準で視力が悪ければ「要精密検査」と判定するのはこのためです。この判定を受けた方は、眼科で詳しい検査を受けるようにしてください。